

まさに今、
私は成長させてくれるもの。
それは「5倍のサージテル」です。

イースト21歯科医院の今井亜沙美先生。歯科医師となつて、この4月で5年目です。2年目でサージテルの3倍を使い始め、4年目になると5倍に倍率アップ。「環境と成長」、そして5倍の使用感と今後のヴィジョンについてお話を聞きました。

Asami Imai

今井 亜沙美 先生
イースト21歯科医院(東京都江東区)



今井先生がサージテルを使い始めたきっかけは何ですか?

大学を卒業し、他の歯科医院で1年間研修して、2年目のときにはイースト21歯科医院に来ました。ここでは、当時院長だった生川寛之先生をはじめ、ほとんどの先生がサージテルを使っていました。

2年目ですから、私はとにかく“治療をきちんとできるように”ということだけを考えて治療をしていました。でも半年過ぎたころ、生川先生から「早く使い始めたほうが治療の質が上がるよ」と言われて。そこで、医院に置いてあつた3倍を使い始めたんです。

今から考えれば、生川先生は院長として私を成長させ、医院のレベルを上げたかったのかな、と思います。見ることによって自分に足りない色々なことに気づくわけですから、確かに使つたほうが早く“きちんとできるようになりますよね。ですから、勧めてくれた先生には本当に感謝しています。

サージテルを使い始めたときの感想を教えてください。

つけてすぐに、“これは必要なものだな”と感じました。形成やマージンなどで、使うのと使わないのとでは違いが明らかです。歯科では、治療をしているそのときに「見えるか見えないか」が治療の質につながります。治療の質を上げて患者さんに貢献するには必要なものだと感じたんです。

個人差もあると思うのですが、すぐには拡大視野に慣れませんでした。でも、必要だとわかつたからこそ、早く使えるようになりたかつたですね。診療が終わつた後に残つて練習しました。最初のうちは視界に酔うこともありましたが、半月ほどたつからは完全に自分の眼のような感じで使えるようになりました。

その後、ちょうど4年目になるときに、倍率を3倍から5倍に上げました。

これにはどんな理由があったのですか?

当初、サージテルの力が一番発揮されるのは形成だと思っていたのですが、そのうちにこれは根管治療で使える、と思うようになってきたんです。それを意識して根管を見ているうちに、3倍では物足りなくなっていました。“今見えている世界のほかに、まだ何かがある”という感じですね。

実際に5倍で見てみたら、やはりそのとおりでした。たとえばMB2が見えたりですとか、それまで見えなかつた根管に気づけるようになりました。これが5倍にして一番強く実感することですね。見えなかつた所が見えるようになったことで不安が減り、自信も持てるようになりました。

それからもう一つ、倍率を上げた理由があります。それはやはり、環境だと思うんです。イースト21歯科医院では拡大が当たり前になつていますし、他の先生も倍率を上げていきます。その先生たちのお話もよく聞いていましたからね。

5倍にするとき、「時計を買おうと思っていたけど、やめてサージテルにします」とおっしゃっていましたね。

はい。自分では「歯科医師としての段階を踏む」とか「今、自分は成長曲線のここにいるから、ここまで上げよう」ということはあまり考えたことがないんです。でもそのときは、「大事なのは、



まさに今だ」と感じたんです。当時は自分の未熟さを感じていて、今でもまだまだですけれども、今の自分に必要なのは時計よりもサージテルだと思いました。

5倍を使い始めて1年ですが、このサージテルは間違いなく時計以上の相棒ですね。ほぼすべての治療で使っています。たとえばインプラントのオペ。口腔内を全体的に把握しなければならないですから、サージテルを使うのはどうかなと思っていました。でも、つけて埋入や縫合を一つひとつ丁寧にやることで、最終的な仕上がりがきれいにできました。一つひとつがきれいなものが、集合体になったときにもっときれいになる感じです。

最後に、歯科医師としての今後の目標やヴィジョンを教えてください。

私は、イースト21歯科医院の「サージテルを使うのが当たり前」という環境に育ててもらつたと思っています。今、院長というポジションをやらせていただいているので、今度は私がこれから入つてくる先生にアドバイスしたり、環境を作つてあげたいと思っています。

それから、35歳までには実家の近くで開業したいという気持ちがあるんです。おそらく義歯や欠損補綴、インプラントが多くなるので、そこを頑張つていきたいと思っています。

でもその前に、今でも治療がまだまだなと思うことが多いので、とにかく治療技術を高めていきたいですね。実は最近、5倍から倍率を上げて、もっと見たいという気持ちが出てきたんですよ。ですから……時計はもう少し、先ですね(笑)。